

## ■2022年度実績

### ①子どもの笑顔・元気プロジェクト

この取り組みは、「アトリエ自遊楽校」と「NPO みやぎ・せんだい子どもの丘」が、東日本大震災の三日後に立ち上げた団体です。被災地の子ども達と子どもを支える大人達の現場を支えるという基本理念のもと、震災直後から①物資支援②義援金支援協力③被災地、避難所でのコンサートや人形劇、参加型ミュージカルの公演を行なってきました。

震災から10年以上経った現在も③の「プロの役者と被災地の子ども達が3日間でミュージカルを作りあげるプロジェクト『子どもの笑顔元気ミュージカル』」は、継続して行なっています。

震災から10年以上が経ち、各種助成金は終了、あるいは縮小され、各企業からの支援も難しくなってきたため、初めてクラウドファンディングに挑戦し3,903,000円を集めることができ、10月16日に福島県富岡町において実行することができました。

### ②各施設での活動

#### ■岩切児童館

「児童館の特性を生かしながら運営をどう行うか」をテーマに、スタッフ全員で考え運営を行いました。

#### ○児童健全育成事業

新型コロナウイルスの状況をみながら、現時点での子どもの居場所をどうつくっていくか考え、流動的に対応しました。児童館での遊びを通し子どもたちが感じ、学び考えることができるよう、日常的な遊びや関わりの中での出来事を共感しスタッフで検討する機会を増やしました。

#### ○子育て家庭支援事業

児童民生委員さんやいわきり子育てネットワークのメンバーと積極的な情報館に努め「IkoNet」のリーフレットの改訂版を作成し発行しました。児童館に来館した保護者には、ゆっくり過ごしてもらえるように、子ども達の様子を一緒に見守りながら、保護者との対話を大切にコミュニケーションを図ることを基本としました。

#### ○地域交流推進事業

新型コロナウイルスの感染拡大状況をみながら、工夫し会議や集まりを行いました。この状況で今子どもたちの為に、地域の為にできることを模索し、情報交換をし、てんたん人形劇や弦楽器コンサート、わくわく防災キャンプ、防災さんぽなど多くの事業を行うことができました。

#### ○放課後児童健全育成事業

感染リスクを下げながら日常生活を送るなかで、遊びについての工夫が必要な場面が多く、課題も多くなりました。課題が見つかる度にスタッフ全員で解決に向けて見直し、検討しました。各々のスキルアップと共に、子どもたち一人ひとりの好きな遊びをクローズアップし、遊び込める環境を作りました。遊びを通して子どもの成長を感じられた一年でした。

#### ■通町児童館

児童館事業として子どもの遊びや交流をどう進めるか模索した一年でした。

#### ○児童健全育成事業

児童館に来なくても遊べると呼びかけた「カム Come エンジョイ」は謎解き問題募集や七夕飾りキット配布と展示や笑顔パネルの作成に、祖父母や両親、幼児から中学生まで参加がありました。

「こどものまち」はすべて自分たちで企画の個人商店に、準備から中学生が集まり4店舗が参加していただきました。

#### ○子育て家庭支援事業

年間148日、地域子育て拠点事業を兼ね「ぴよぴよ広場」水遊びや親子コンサートや造形遊びと「おはなし会」を実施しました。交流みんなのしゃべり場「1DAYサロン」はおさがり市や布絵本、

おやつレシピの配布、感染症や寝相アートと合わせ非常に盛り上がりました。

#### ○地域交流推進事業

児童館まつりを再開しました。地域からの支援品が多く集まり、児童クラブの保護者も参加し世代間の交流になりました。地域19団体で連携した「てらまちフェスタ」は飲食を遊びに変え実施しました。寺社・市民センター協力の柿もぎ配布は、地域や幼児小学生の親子に大変喜ばれました。市民センター2か所の展示発表会で、親と子ども制作「モザイクアート笑顔パネル」を地域の方々にご覧いただきました。

#### ○放課後児童健全育成事業

感染予防からも各部屋の遊びや交友関係を記録し、子どもの行動や遊びを丁寧に見守りました。昨年のアンケートの意見から児童クラブ便りの内容を見直し、遊びの写真を玄関に掲示し、じどうかんまつりに行事や日常の写真の展示コーナーを設けるなど工夫しました。

### ■鶴巻児童館

地域の協力を得ながら子どもと地域が繋がる行事を企画し、地域と共に成長する児童館を運営することができました。また、子どもの社会参画、自己実現を図る事業にも多く取り組み、主体的に参加する姿勢を子どもたちに育むことができました。

#### ○児童健全育成事業

4年生から中学生までの子どもボランティアを募り、館の主催行事「こどものまち」の企画運営や自主企画「鶴巻大喜利グランプリ」の実施、児童館行事の補助など行い、地域のリーダー育成を目的に活動しました。また、今年で結成13年目となる子ども劇団「わんにゃんぶう」は、詩人武田こうじ氏に脚本と演出をお願いし、3年振りに有観客で発表することができ、対面で発表する緊張感やお客さんからの温かい拍手に包まれる体験を味わうことができました。

#### ○子育て家庭支援事業

「ほっとサロン」は講師を迎え、子育てママ向けのヨガや保健師さんと気軽に話せる機会を作り、ほっとできる時間を提供することができました。また、「らららんぽけっと」では民生委員さんによるふれあい遊びや、読書アドバイザーによる絵本の読み聞かせなどを行い、親子で遊ぶ楽しさを伝えることができました。

#### ○地域交流推進事業

「つるまき！トリックオアトリート！」では、保護者や地域の方に引率や交通安全指導にご協力頂きながら3年振りに仮装をして、地域の店舗や施設への訪問する形を取ることができました。久しぶりの訪問に地域の方も嬉しそうな表情を浮かべていました。

#### ○放課後健全育成事業

引き続き基本的な感染症対策を行いながら、コロナ禍でもできることを模索し、子どもたち主体でクリスマス会の企画運営をお願いするなど、仲間と協力して作り上げる体験や、自己実現の楽しさを経験できるようサポートを行いました。また、放課後の時間を子ども達が落ち着いて過ごすことができるよう、職員のスキルを活かし充実した時間になるように工夫することができました。

### ■八本松児童館

仙台市の設置目的に基づいた管理運営上の基本方針に沿い【地域でつながる・あそびでつながる児童館】を念頭に置いて、利用者に寄り添った居場所づくりに取り組みました。

#### ○健全育成事業

0～18歳の子どもが利用できる場として、安心して過ごすことができる居場所づくりを意識した関わりや取り組みを実施。移動児童館事業として【どこでも児童館】を開始し、児童館を利用したことのない親子の近くに小さな児童館活動を展開。当児童館だけでなく身近な児童館に足を運んでもらうきっかけとなりました。中高生世代支援【エイトベース】では、中高生世代が利用できる場として浸透し、きょうだいで来館したり、館内外で中高生が小学生と関わり、異年齢で関わる機会が双方に生まれました。

#### ○子育て支援事業

妊娠期からの支援として【はぐはぐ】を実施。家庭健康課にサポートを受けながら年間5回実施し、

育児体験や助産師の講話が好評でした。また、ベビーマッサージやヨガなど、母親のリフレッシュと子どもとの関わりを深める支援をはじめ、季節ごとの事業も実施しました。

○地域交流事業

3年目を迎える【どんぐりマーケット】では、児童館単独ではなく様々な団体の協力を得て開催。3日間累計で648名が来館し地域に浸透した事業となりました。また、要配慮者を包摂した事業『つながる防災プロジェクト【あそぼうさい】』では、9団体に協力を得て開催しました。防災を身近に感じることで災害が起こった際の備えを遊びを通して体験する機会となりました。

○放課後健全育成事業

障害の有無に関係なく安心して過ごすことができるよう、子どもたちと関わり合いながら事業を展開しました。ヒヤリハットではなく、にやりホッと視点を全職員が持ち、子どもの良いところに目を向けて関わり合い、保護者にも伝えるようにしてきました。

「児童館が楽しい」という子どもの言葉を保護者を通して聞くことが多い一年でした。

■立町マイスクール児童館

仙台市のガイドライン・団体のガイドラインに沿いながら、新型コロナウイルス感染症対策を取りつつも、できるところから少しずつ活動再開を目指して取り組んだ1年でした。

○児童健全育成事業

夏休み中に「夏ボラ」としてのべ80名の高校生・大学生をボランティアとして受け入れ、児童館を実体験していただきました。また、ボランティアサークルを立ち上げ活動場所を探していた高校生のグループと夏ボラをきっかけに繋がり、行事の手伝いをお願いしたり企画イベントを実施したりするなどして活動を展開しました。

○子育て家庭支援事業

0歳～1歳6か月・1歳6か月以上という枠を設けながらも、月齢・年齢に囚われず発達や興味関心に応じて参加日を選べるようにし、誰でも参加しやすい形を目指しました。

また、自然で自由な身体メソッドで発達を支援している講師の方を外部からお迎えし、子育てひろばを開催、その日は午前中どの時間でも相談ができるという形で、気になることを気軽に相談できる環境作りに努めました。

○地域交流推進事業

小規模ながらハロウィンの地域巡回を再開し、幼児親子や小学生と地域の方の顔の見える関係作りに努めました。また、小学生の通学路点検ワークショップには、近隣の町内会長等地域の方々が子どもたちの引率についてくださり、交流しながら活動をすることができました。

一番町四丁目商店街の子竹飾りにも参加し、子どもたちと作った七夕飾りで地域の盛り上げに協力をしました。

○放課後児童健全育成事業（児童クラブ）

近隣の西公園を活用しながら、コロナ禍でも思い切り遊べるような環境作りに努めました。夕涼み会・お別れ会等も復活させ、感染対策をとりながらも楽しめる内容にして思い出作りができるような企画にしました。「子どもたちのために」という思いを保護者の方々と共有することができ、保護者会の協力を得て実施することができました。

■荒巻マイスクール児童館

コロナへの対策も3年目となり、公共施設としての信頼を損ねることのないよう基本の感染対策を継続しつつ、Withコロナ時代の児童館運営を意識し4つの事業領域のそれぞれに取り組みました。

○児童健全育成事業

基本的なコロナ対策をしながら「つくってあそぼう」「ボドゲのじかん」「子どもスタッフ」などの行事・活動を継続し、自分の思いをカタチにすること、仲間と一緒に活動し、主に小学生を対象に“自分”を育てることを意識した事業を行いました。中でも子どもスタッフ（小4～6）の活動を充実させ、子どもたちが主体的に意見を出し合い、企画に取り組み、10月に「おばけやしき」、3月に「子スタ祭り」を大成功させ自信につながりました。

#### ○子育て家庭支援事業

登録制の幼児クラブや申込制の行事「げんきにあそぼう」のほか、平日午前中の親子の自由来館の時間を使い幼児親子の遊びの場所や時間の提供に努めました。

また、各保育園とつながり、先生方と交流しながら、地域支援を行いました。

#### ○放課後児童健全育成事業

昨年度に引き続き、利用を控えるご家庭が増えて連絡カードだけでは保護者との情報共有が難しくなったことから、電子メールを活用して保護者との情報共有に取り組みました。

また、子どもたちと感染予防対策に取り組みながら遊びプログラムの充実を図り、これまで続けてきた「他児童クラブとの交流」は、集まらずにできる内容を工夫して継続しました。

#### ○地域交流推進事業

実現できた行事（ペタンク大会等）については積極的に参加しました。また、葉山包括支援センターを拠点に活動している「男塾」と野菜づくりを行うなど新規の連携事業を開始しました。

### ■芦の口児童館

令和4年度は「保護者支援」をテーマに児童館・児童クラブ運営に取り組みました

#### ○児童健全育成事業

令和4年度後半は、小中高生の利用が可能になり前年度より利用者が多くなりました。特に、小学4年生以上が登録制で行う「こどもスタッフ」は月に2回児童館で使う遊具を作ったり、下学年の子どもたちとゲームをしたり、じどうかんまつりのコーナーを運営するなど積極的な活動を行ない一人一人活躍できる機会を設けました。また、月1回の「やってみよう」では火起こし体験や水鉄砲つくりなど挑戦する、体験する活動として好評でした。

#### ○子育て支援事業

助産師さんが個別で育児相談を受ける「ことりる一む」ではそれぞれの相談にのりながら、日々子育てに励んでいる保護者に寄り添いながら励ましてきました。また、月に1～2回の乳幼児親子対象の行事は参加組数を決め予約制で行いました。また、保護者支援の一環としての「ゆきちゃんとヨガタイム」は子育て中の方がリフレッシュして子育てに向かう時間として大変好評でした。

#### ○地域交流推進事業

子育て支援クラブ「あしっこ」は行事を児童館と共催したり「野菜・花そだて隊」を毎週実施し生育と収穫を一緒に楽しんだり、「ヨガ」では見守り託児を一緒に行うなど、児童館を利用する方々と積極的に交流していただきました。

また、地域の放課後デイサービスの利用者の方々を「あそびうたコンサート」に招待したり、地域のバイオリニストの方のコンサートを企画するなど広く交流をはかりました。

#### ○放課後健全育成事業

昨年度に続き長期休業日に上学年は小学校の教室や校庭を借用し密をさけるための協力をいただきました。また、児童理解を深めるため「個人記録」の作成、児童と職員その他、保護者と保護者 保護者と職員 小学校と児童館がつながる取り組みとして「保護者面談」「親子レクリエーション」「担任面談」を行いました。今後も地域と連携した運営を行います。

### ■錦ヶ丘児童館

今年度は十分な話し合いと対策を重ねながら、少しずつ行事を復活させることが出来ました。

自由来館の方にも気軽に来ていただけるよう周知に努めました。子どもの遊びの準備に力を入れて一日の最後が楽しく終わられるよう配慮しました。

#### ○放課後児童クラブの運営

遊びの中で社会性を学ぶことを念頭に置いて子ども達に寄り添い、退屈しないように様々な種類の遊びを用意しました。縦割りのクラス編成にすることで低学年と高学年の関わりをもつ機会を増やし、お互いが良い影響を受けられるように活動を工夫しました。特に、集団遊びや大きな行事では大人数の児童館ならではの活動が出来ました。支援の必要な子どもには、環境の構造化を図り、一人一人に十分な配慮を心掛けました。

#### ○児童健全育成事業

影絵劇団「つきのえ」やコラボ企画「児童館を飾ろう」などで小学生と中学生が交流する機会をもつことが出来ました。更に、児童館まつりを開催することができたことは大きな喜びでした。自由来館の子どもの居場所を用意し、仲間の輪を広げることが出来ました。

#### ○子育て支援事業

乳幼児親子の自由来館が少しずつ戻り、保護者の話し相手になったり、また活動内容も子どもの年齢に応じた楽しい企画になるように配慮しました。定期事業は「幼児クラブ」や「お話し会」など継続した活動の提供が出来ました。毎回人気の「おんぷっパ♪」では生演奏でリズムに合わせて身体を動かしたり、また幅広い年齢に楽しんで頂けるように内容を考えました。

#### ○地域交流推進事業

地域の花火大会のポスター作りを実施したり、クリスマスに近くの保育所に手作りのクリスマスプレゼントを届けました。錦ヶ丘小学生と中学校とで緩やかに手を繋いで情報交換をしながら、子ども達を見守ることが出来ました。今年度初めて、近くの諏訪神社に出かけて神社の歴史や文化に触れることができ学びに繋がりました。

### ■利府西部児童館

「健やかな成長発達及びその自立を図ることを地域の中で具現化する児童福祉施設」ということを踏まえ、改訂児童館ガイドラインに沿った運営を念頭に、東部児童館・児童クラブ統括とともに参加する環境作りを進めてきました。また、コロナウイルス感染症の状況を確認し予防に努めてきました。現在も先が見えない状況ですが、地域や保護者様のご協力を得て、地域と繋がる行事を実施することが出来るようこれからもつとめて行きます。

#### ○児童健全育成

誰でも利用できる居場所としての機能として、「何ができるのか」という視点を変え、実施できるよう心掛けました。利府町東部児童館との共催事業「島であそぶ（デイキャンプ）」「森で遊ぶ」や子どもたちからの発信力を大切に、「はやく元気になあれプロジェクト」を実施し、子どもたちの手作り作品を町内の公共施設やお店等に飾ってもらう「ゆきだるまーけつと」を実施することができました。

コロナ禍の環境のなか、子どもたちや保護者の不安な気持ちを聞いたり、小中学校や町の担当課とも連携を図り、公園での子どもたちの遊びを見守り、情報交換を密に行っていました。

#### ○子育て支援

保護者や日中見守りをしている祖父母などに幼児の成長に関わる必要な情報提供をおこないました。乳幼児期の子育ての不安やストレス解消の支援、保護者の仲間作り、子どもの友だち作りの支援等も行うとともに虐待やDV、発育遅滞などの早期発見を心がけました。

#### ○地域交流推進

年数回実施している菅谷台保育所交流事業を通じて、未就学児との交流を図ってきました。また、アウトプットだけではなく、「面白さ」「楽しさ」を仲間と共有できるように年間での活動を意識し、必要に応じて外部機関との連携を図りながら活動を充実させてきました。

#### ○放課後児童クラブ

子どもの健全な育成と遊び及び生活の支援、保護者との連携、こどもの発達理解を柱に、自発的に児童クラブで過ごせるよう生活の中に①あそび②くつろぎ③生活習慣の定着④自主学習⑤集団生活での必要なこと⑥静養等を意識しデイリープログラムを充実させてきました。また、利府町東部児童館や利府町統括とこまめに連絡を取り、児童クラブの子どもの環境を整えてきました

## ■利府町児童クラブ

放課後児童クラブ運営指針に則り、児童の過ごしやすい環境づくりを進めてきました。円滑な児童クラブ運営のため、職員間や利府町内5つの児童クラブ内でのミーティングを重ね、全体での情報交換を行いました。コロナウイルス感染症による規制の緩和に伴い、小学校の対応に沿って児童クラブも対応しています。

### ○児童健全育成

支援の必要な児童や家庭への対応や関わりを学ぶため、各クラブに講師をお招きしてサポート訪問を継続して行っています。年齢や発達の状況が異なる児童を同時に育成支援するため、職員間の情報の共有等は特に注意しました。

### ○子育て支援

迎え時に家庭での様子や児童クラブでの様子など、保護者と職員で共有できるよう積極的に関わりを持ちました。支援の必要な児童については、適切な支援が出来るよう特に保護者と連携するよう心掛けました。

### ○地域交流推進

「りふくる」協力のもと、職員や児童にモルックの普及を行いました。更生保護女性会協力のもと、児童と一緒に球根を植えたり、梨やジャガイモを食べたり、地域の人と交流を持つ機会を徐々に増やしています。今後も相互にメリットのある関係が続けていきます。

### ○放課後児童クラブ

利府町内5つの児童クラブや児童館と連絡を取り、コロナ禍での各小学校、クラブの生活スタイルを共有し、児童が安心安全に過ごせる環境設定を図りました。また、徐々にコロナウイルスによる規制が緩和されているため、各小学校に足並みをそろえて対応をしています。各クラブ登録人数が増える中、職員の人数が足りないながらも怪我だけは無いよう注意し、日々の生活を送っています。今後も登録人数が増えることが予想されるため、今の環境や限られたスペースでどう過ごしていくかを考えていきます。

## ■利府東部児童館

児童の権利に関する条約に掲げられた精神及び児童福祉法の理念に則り、「こどもの心身の健やかな成長、発達及びその自立が図られる事を地域の中で具現化する児童福祉施設」を踏まえ、児童館ガイドラインに沿った運営を念頭に、西部児童館と積極的かつ主体的に参加する環境作りを進めました。また、隣接する公園では児童館を利用したことが無い小・中学生に児童館のPRを行い、児童館の周知・利用促進に努めました。

### ○児童健全育成

こども達から大人気の「海で遊ぼう！in浦戸諸島野々島」や「森で遊ぼう！in県民の森」等の行事では、多くの方のご協力を仰ぎ開催することが出来ました。

また、「児童館に泊まろう」や「さかな丸ごと食育教室」など感染対策を行い、コロナ前の行事に近い形で開催することが出来ました。

### ○子育て家庭支援

幼児クラブやおはなし会等、乳幼児親子を対象とした行事を充実させ、保護者間の交流の一助を担えるように職員が積極的にコミュニケーションを図り、保護者同士が交流しやすい環境作りに努めました。また、こどもに関わる施設のパンフレットやポスターを掲示し、情報提供に努めました。

### ○地域交流推進

葉山保育園との交流事業を開催し、未就学児との交流を図りました。

また、地域の方を対象とした行事を実施や、地域の方を講師にお迎えしての行事を行い幅広い

世代の方に児童館の周知・利用促進を行いました。「児童館だより」を葉山町内会へ回覧の依頼をし、児童館の理解と健全育成への協力を発信しました。

#### ○放課後児童クラブ

児童館の畑を使った農業体験や、工作活動・運動遊びを通じて、異年齢や男女の括りに囚われない活動を展開しました。

また、1年生に向けた「はじめましての会」や全員参加のお楽しみ会を行い、児童の関わりや繋がりをより一層深める機会としました。年度末には、「あきらちゃん・じゃんぷくんあそびうたコンサート」を行い、児童館・児童クラブが一体となり子どもも大人も思い出に残る楽しい時間を過ごすことが出来ました。

### ■吉岡児童館

令和4年度は、4月11日から通常開館になりました。

感染対策を行いながらの開館は、スタッフに消毒作業など多くの負担をかけましたが、幸いなことに児童館での感染は確認されませんでした。自由来館小学生の中には保護者の送り迎えで毎日のように来館する児童が複数おり、安心と居心地の良さを感じてくれているのだと思いました。

乳幼児親子の来館は、「遊びweek」「mamaのほっとサロン」などイベントの開催や児童支援センターとの連携に力を入れたことで、利用者が両施設を行き来しながら、それぞれの良さをわかり、お子さんがより楽しく過ごせる場所として選んで遊びに来てくださっていることを実感できました。土曜日が放課後児童クラブ事業のみの開設になり、児童館が閉館になったため中高生の自由来館利用が減少しましたが、進路の悩みをスタッフに話したり、卒業の報告に来てくれるなど、児童館が大切な居場所だったことを改めて教えられました。

児童館まつりは、「よしおか忍者屋敷」を事前申し込み制で開催。参加した児童からは、「もっと遊びたかった」、「また来年もやりたい」などの声があり、非日常の遊びも求められていると感じました。

#### ○吉岡児童館こうほう部

昨年度のプレゼン大会で優勝し立ち上がったこうほう部は15名が参加、YouTubeラジオと壁新聞づくりの2本立てで活動しています。「ひだまりらじお」は、6月30日に#0「吉岡児童館がラジオはじめます！」から計22本を配信、1316回の視聴をしていただいています。壁新聞は、36部発行しました。(5/8現在)

#### ○放課後児童クラブ事業

新年度保護者説明会は、感染症による学級閉鎖が相次いだため中止し、個別に対応しました。保護者一人一人と改めて面談ができたため、スムーズに新年度を迎えることが出来ました。家庭の事情児童の特性など支援の必要な児童が多く登録していますが、保護者から信頼をいただけるような丁寧な対応を心がけました。

### ■大和町児童支援センター

令和4年度も支援センターは、事前予約制や消毒などの感染対策を徹底して行ってきました。

大和町からも評価され、第7波や第8波など感染拡大の中でも、休館措置等なく1年を通して開館することができました。第8波以降は受け入れ人数を少しずつ増やし、2月からは大和町の意向を受け、予約制も廃止しました。

予約制は利用者にあった丁寧な対応を行うことができるメリットがある反面、人数制限があり、利用者の皆様にはご迷惑をおかけしました。予約廃止以降はより気軽に足を運んでいただくことができ、3月にはコロナ前を超える700名以上の利用者を迎えることができました。

#### ○子育て支援事業

定例行事「おはなし会」「からだであそぼう」は子どもだけではなく、保護者も楽しめるような内容や働きがけを意識しました。年度末のアンケートには「親子共に楽しめました」という回答が多く、スタッフ一同嬉しく思っています。父親スタッフによる土曜行事「パパとあそぼう」は多くのお父さんに参加いただき、パワフルな遊びを楽しみました。

参加人数を制限しながらではありましたが、講師をお招きしての行事も行うことができました。「しがちゃん」「モンブランくん」「ジャンプくんとビーバーくん」「よ～かん」「マーチ」といった当法人の人財ネットワークを活かした事業は毎年好評です。4年度は「助産師と話そう」「ようこそイヤイヤ期」といった専門家による講座も行いました。吉岡児童館の力も借り、スタッフによる見守り託児が充実していたこともあり、母達の懸命に学ぶ姿が見られました。夏に行った大型行事「ちびっこまつり」は吉岡児童館児童クラブもスタッフとして参加し、互いに異年齢との関わりをもつことができました。毎月の制作あそびも好評で、えのぐや書き初めなど家庭では中々できない遊びを楽しんでいました。その他にも遊びを通して行うハロウィンや節分などの季節の行事も大好評でした。

#### ■よしおか放課後児童クラブ

利用登録児童の4割弱が新型コロナウイルスに感染してしまったが、幸い子ども達の感染期間が重複することが無かったので、連日子ども達の元気な声が響き渡った一年でした。

よしおか放課後児童クラブは、吉岡小学校のすぐ目の前に立地していることから、低学年児童の利用希望者が大半を占め、遊びの種類も低学年を中心とした内容に変わってきており、3・4年生の子ども達には、自分たちの要求がなかなか通らないことから我慢を強いられる事が多くあったが、何だかんだ言いながらも低学年の子ども達の面倒を見ながら楽しそうに遊んでくれました。

また、児童館スタッフ不足から生じる子ども達の遊びの制限等を解消し、子ども達を安全に楽しく過ごさせるために、無理を承知で近隣の他児童館等へ「ヘルプスタッフ派遣」をお願いしたところ子どもの丘本部はもちろん、他児童館、児童クラブの館長様、施設長様より暖かく・深いご理解・ご協力を賜り、毎週ヘルプスタッフを派遣していただきました。おかげ様で、一年間、大きな怪我や事故もなく子ども達の笑顔があふれる楽しい児童クラブを運営することができました。心より感謝申し上げます。

#### ○〇円農業・大きなかぶプロジェクト

R4年度は、新しく耕作土を搬入して作物の種類を増やしたり、雨水タンクを設置して雨水の有効活用を図ったりと、農業倶楽部の取組が順調に軌道に乗ってきました。また、同じ町内にある「吉岡児童館」と「大きなかぶの収穫（大きさ）対決」を始め、種蒔きから毎日の水やり、除草に至るまで子ども達が熱心に取り組み、無事に収穫対決を終えました。結果は、なんと「同じ重さのかぶが収穫」され、決着は2023年度に持ち越しとなってしまいました。

子ども達は更なる目標ができたと闘志を燃やしていたので次年度の取組（対決）が楽しみです。今後この取組を大和町内の全児童館に広げられれば、佐藤忠良先生もきっと喜んでくれるのではないかと思うのでFacebook等を利用しながらどんどんアプローチしていこうと考えています。

#### ■大郷町児童館

大郷町児童館では新型コロナの影響により延べ15日間の休館がありましたが、日常での感染防止対策や罹患者判明時の対応において職員も利用者もすっかり手慣れたような1年でした。町内でも規模縮小されながらも数年ぶりに秋まつりが開催され、児童館で活動している郷土芸能サークル郷の舞（さとのまい）が開会式に踊りで華を添える一幕もありました。

児童クラブでは、登録者数が前年比24人増の月平均94名で1年を過ごしました。職員の負担は増えましたが、児童らの笑顔を励みに年間を通して奮闘してくれました。

#### ○児童館事業

サークル活動として本腰を入れた“郷土芸能サークル郷の舞”と“児童文化財サークルわらすこ”では、それぞれ公演の機会を多く設けたり、台本に子ども達のアイデアを盛り込むなどして参加児童の意欲を引き出すように心がけました。

子ども達の活動的表現の幅が広がるようにと新たに実施した“大道芸遊び”では、コマやけん玉の昔遊びのほかにディアブロ（中国ゴマ）や皿回し、ポイといったジャグリング要素のあるものも取り揃え、運動感覚を刺激するものとして定番人気になりつつあります。

また、昨年までの行事である小中学生対象のなんでも遊び“あそぶべぼ”や乳幼児親子のまっ



たり楽しい時間を提供する“ほわほわさん”も引き続き「楽しかった」という声が聞こえるような企画になるよう内容や進行の工夫に取り組みました。

#### ○児童クラブ事業

例年実施している行事に加え、今年は“水遊び”や“ハロウィン仮装コンテスト”などを新たに行いました。このほか小学校の振替休業日に急遽合わせた“ミニ運動会”や“ビンゴ大会”などもレクリエーション的要素が発揮され盛況に終えています。

一方で子ども達の“主体性”を引き出すべく、小さな企画から1つ1つの関わり合いを含め、様々試行錯誤していますが、子ども達になかなか馴染まず苦慮する日々が続いています。

ともあれ、大きな事故やトラブル、苦情もなく事業を実施できていることでひとまず及第点とみて良いのかなと感じています。

#### ○全体

小学校をはじめ、他の関係施設とも連携をすることができ、それぞれの事業運営にも活かすことができました。来年度はさらに協力施設を増やす見込みです。

今後はさらに業務の効率化を図り、利用者のために使う時間を増やすこと、また多人数を相手にするときでも丁寧な関わりができるよう職員一同研鑽を重ねなければと考えています。

### ■こじゅうろうキッズランド

2018年8月にオープンし、今年の夏に開館5周年を迎えます。4月に来館者数30万人目のお客様を迎え山田市長やポチ武者こじゅうろうと共に祝いセレモニーを行いました。開館3年目から遠足&あそびうたコンサートを始めたところ、年間30団体の利用から2022年度には93団体となりました。

また、白石のおもしろい市場、みのりキッチンと食育イベントの実施や白石警察署と連携し「交通安全ひろば」「110番の日PR」でパトカー展示をしたり、白石市に支店や工場がある企業とのコラボも大切にしています。ソニー白石工場「サイエンススクール ICレコーダーづくり」、第一生命保険白石店「縁日広場 きらきら★サマーランド」などです。

また、近隣自治体とのつながりを作るひとつとしてゆるキャラをコンサートに招待しています。

「ゆるキャラのWA!」として白石市ポチ武者こじゅうろう→蔵王町ざおうさま→村田町くらりん→柴田町はなみちゃん→角田市ガブリくん→moreと紹介スタイル。

白石すまいるキッズアンバサダーあきらちゃんの♪うめん体操出前事業では、キッズランドスタッフ&白石子ども家庭課&しろいし母親クラブのメンバーと一緒にいい好評を得ました。また、白石高校マンドリン部や箏曲部のコンサート、仙台大学や仙台白百合女子大学とのコラボイベントやNPOスタッフプロジェクト研修の発表も実施しました。

これからも、キッズランドにあそびに来る親子の笑顔づくりをしてくれる若者たちにたくさんの機会を提供していきたいと思っています。イベントの様子はfacebook、インスタ、Twitter、ブログなどSNSで発信しています。スタッフもどんどん笑顔の写真を撮るのが上手になっています。おもしろがってイベントに関わってくれたスタッフに感謝です。今後も、白石にまつわる人たちのパワーをかりながら～♪Go! Go! 5周年×2 笑顔と笑顔がDonDon広がるこじゅうろうキッズランド!

YouTubeでチェック!



### ③宮城県中央児童館跡地活用

具体的な進展はありませんでした。遊園部分は仙台市の管轄になっていますが、本館の敷地は、売却されており、現在は住宅地となっています。

### ④関係団体との連携・ジュニア・リーダーやボランティアの育成

理事長の平山は宮城県児童館・放課後児童クラブ連絡協議会の監事を、利府西部児童館の永浜館長は理事をつとめました。

副理事長の新田新一郎は、公益社団法人全国子ども会連合会の理事をつとめ、引き続きジュニアリーダー・シニアリーダーの育成に協力しました。

宮城県地域活動(母親クラブ)連絡協議会の事務局は引き続き当法人の本部内にあることも含め、かつて宮城県中央児童館ゆかりの3団体それぞれと連携を深めることができました。

#### ⑤市町村の指定管理者の公募

こじゅうろうキッズランドは、指定管理者として選定していただきました。(5年間)

大郷町児童館は、既存の方針通り、「社会福祉法人遊創の森」として指定管理者として選定していただきました。運営団体は異なりますが館長会には引き続き出席し、同一の運営を行います。

利府東部児童館は1期目の契約満了に伴い再公募に手を上げましたが、残念ながら選んでいただけませんでした。指定管理者となるシダックス大新東ヒューマンサービス株式会社とは、利府町役場子育て支援課が開催する毎月の運営会議で情報を共有します。

#### ⑥魅力的な研修会の実施

ONPOみやぎ・せんだい子どもの丘主催の自主研修会

<目的>

児童館・児童クラブ職員には児童の成長と発達を継続的に見守り、共に活動しながら健全な育成を支援する職責があります。組織として知識、技術を備えた人材を育成する研修体系を設け必要な専門的なスキルを学べる機会を確保するとともに、講師については団体のネットワークを活用し、当団体にしかできない魅力的で充実した内容で開催します。

また、従来子ども環境への課題に加え、新型コロナウイルスや社会情勢の変化に伴う対応が求められている現状にも臨機応変に対応し、研修の追加や内容の変更なども柔軟に行います。内部研修のねらいとして、専門的な学びを深めるという意識だけでなく、担当業務や経験年数など他館職員と情報共有、連携しやすい関係性作りの場としても意識します。研修を通して、主体的な活動に繋げることも意識し、横やななめの繋がりを強化するとともに、法人内の職員が同じ方向性で職務にあたるよう、様々な情報やものを柔軟にやり取りできる関係性を築き上げます。

<報告>

本年度も新採用職員研修、一泊研修(プレゼン大会、永野むつみ人形劇)、児童館サポート研修、プロジェクト研修などコロナ禍であっても企画を提案、実行できる力や児童支援の基礎を養う研修を実施しました。児童館サポート研修では、仙台地区、仙北地区それぞれで児童理解に関する研修を行い、専門家による実地訪問ならびに支援に関する技術的アドバイスを頂きました。プロジェクト研修は各館若手職員を中心にメンバーを集め、多様な体験を通し子どもの主体性を育む企画を一から練り上げ、春夏冬のキャンプ企画ならびに秋の白石イベント、児童館紹介の動画作成研修を開催し、それぞれ大きな成果を上げることができました。すべての企画で参加者の満足度は高く、企画運営を行った職員の大きな自信へ繋げることができました。

また、日本社会福祉弘済会の助成を受け、汐見稔幸氏、新沢としひこ氏、荒井良二氏など著名な方を講師に迎え、法人職員だけでなく、子どもの現場で働く職員や地域の方々にも参加頂ける研修を開催することが出来ました。

他にも外部連携として仙台幼児保育専門学校のSEN-YOマイスター講座(年間4回)を9名受講し、利府町文化交流センターリフノス開催のイベントを研修に位置づけ、5つのイベントに延べ59名が参加しました

<開催研修一覧>

- ・令和4年度新採用職員研修① R4/3/20(日) 10:00~17:00
- ・令和4年度新採用職員研修② R5/3/7(火) 9:00~12:00
- ・NPOみやぎ・せんだい子どもの丘一泊研修会 11/19(土) 17:00~11/20(日) 15:00
  - 人形劇団ひばりあむ公演 11/19(土) 17:30~18:30
  - 永野むつみ 講演会 11/20(日) 10:00~12:00
  - 第3回 プレゼン大会 11/20(日) 13:00~15:00
- ・プロジェクト研修① 5/13(金) 9:00~12:00

- ・プロジェクト研修② 6/14 (火) 9:00~12:00
- ・プロジェクト研修③ 7/ 5 (火) 9:00~12:00
- ・プロジェクト研修④ 9/ 6 (火) 9:00~12:00
- ・プロジェクト研修⑤ 12/ 6 (火) 9:00~12:00
- ・プロジェクト研修⑥ 2/ 7 (火) 9:00~12:00
- ・おだづもっこ春のデイキャンプ 6/26 (日) 会場：山元町深山
- ・動画作成研修① 7/15 (金) 9:30~12:00
- ・おだづもっこ夏キャンプ ① 7/16~17 ②7/17~18 会場：セヶ宿町おたて、滑津大滝
- ・動画作成研修② 9/16 (金) 9:30~12:00
- ・白石 秋まつりイベント 10/30 会場：白石こじゅうろうキッズランド
- ・おだづもっこ冬キャンプ ① 1/7~8 ②1/8~9 会場：花山青少年自然の家
- ・仙台地区サポートリーダー養成講座（報告会も兼ね開催）
  - ①5/18 (水) 9:30~12:30「インクルーシブコミュニティとチーム支援」
  - ②3/ 8 (水) 9:30~12:30「支援者のセルフマネジメント」
- ・仙北地区サポート研修（ZOOM オンライン開催、講師 本郷佳江氏）
  - ①5/27 (金) 10:00~12:00「アセスメント（行動観察）シート～子どもの姿と行動の捉え方～」
  - ②9/ 7 (水) 10:00~12:00「保護者支援～コミュニケーションを円滑にする方法～」
  - ③1/31 (火) 10:00~12:00「質問のスキル①～お互いのイメージを共有する力～」
  - ④2/ 1 (火) 10:00~12:00「質問のスキル②～会話のイメージを明確にする方法～」

## ⑦助成金や補助金などを確保した体制強化

○子どもと関わる大人の現場ですぐに役立つ研修会

□助成金額：500,000円

□助成団体：公益財団法人 日本社会福祉弘済会

①絵本作家 荒井良二によるライブペインティング

・開催日時：2022年6月5日（日）10:00~12:00

・講師：荒井良二氏

・会場：仙台幼児保育専門学校

・参加人数：45名（児童館・放課後児童クラブ職員、保育・教育関係職員等）

②『子どもの歌がもっと楽しくなるために』

・開催日時：2022年8月7日（日）14:00~15:30

・講師：新沢としひこ氏

・会場：仙台幼児保育専門学校 大ホール

・参加人数：72名（保育・教育関係職員および学生、その他子どもと関わる職員）

③『いきいき子育て術 子育ては、地域ぐるみ 町ぐるみ』

・開催日時：2023年1月29日（日）14:00~16:00

・講師：汐見稔幸氏

・会場：涌谷町 涌谷公民館 交流ホール

・参加人数：120名（児童館・放課後児童クラブ職員、保育・教育関係職員、地域一般）

○「知って安心。備えて安心。八本松みんなのやさしい防災プロジェクト」

□助成金額：300,000円

□助成団体：損保ジャパン・日本NPOセンター「つながる防災プロジェクト」

□実施施設：仙台市八本松児童館

□概要：第1期助成金事業として全国で9か所の児童館が実施し、0~18歳の子どもたちが誰でも利用することができ、遊びを通して子どもが生き生きと育つ場づくりをしている児童館の特性を活かして、さまざまな地域の人たちがつながり、「誰ひとり取り残さない」防災・減災の取り組みを全国各地で「要配慮者を包摂した防災・減災」に取り組むプロジェクトです。

・実施期間：2022年10月~2023年9月 1年間（継続実施中）

- ・開催実績 : ①2023年1月28日(土)  
【見て・聞いて・感じる防災・減災ワークショップ】子ども9人・大人11人
- ②2023年2月25日(土)  
【いざ!に備える 防災段ボールキャンプ】幼児3人小学生21人一般23人
- ③2023年3月18日(土)  
【あそび×ぼうさい『あそぼうさい』】子ども38人・大人67人
- ④2023年1月21(土)、2月4日(土)、2月25日(土)  
【みんなにやさしい防災マップ『冊子づくり』】子ども延べ30人

#### ○第9回こどものまちinりふ

- 委託料 : 1,424,500円
- 主催 : 利府町(主管 保健福祉部 子ども支援課子ども企画係)
- 概要 : 「こどものまち」は、子どもが主役の「あそびと体験のまち」です。子どもたちは様々な仕事を体験し、給料をもらいまちで買い物をする、社会生活の疑似体験を行います。遊びながら仕事することを学び、様々な出会いの中で協力し、主体的に社会の一員を構成する体験ができる企画です。利府町内のたくさんの企業にもご協力頂き、官民一体となって子どもたちの主体的学びの場づくりをつくるプログラムです。
- ・実施会場 : 利府町役場本庁舎
- ・開催日時 : 2022年9月25日(日) 11:30~16:00
- ・参加人数 : 230名(児童91名、ボランティア94名、視察等45名)

#### ⑧処遇改善

2022年度も放課後児童支援員の処遇改善について実施する仙台市、大和町、利府町、大郷町の対象となる職員については、処遇改善の先払いとして毎月の給与に2,000円上乗せして支払い、行政から処遇改善費が支払われた後、対象者に残額を支給しました。時間で契約するスタッフについては、時給に処遇改善前渡し金として100円を上乗せした金額を支払しました。

### ■2022年度決算

- 売上高合計は768,557,003円(予算666,532,110円)で予算比102,024,893円増(115.3%)  
昨年(18期)の売上高合計は791,323,439円でしたので、昨年比22,766,436円減(97.1%)  
□事業収入は、昨年比14,301,314円減の732,018,001円です。これは涌谷町子どもの丘保育所ならびに涌谷町子育て支援センターを社会福祉法人遊創の森に移管したことによる収入減によるものです。  
□こじゅうろうキッズランドの入場チケット売上代金は20,652,060円で、昨年14,486,520円より6,165,540円増加させることができました。  
□それ以外の収入(会費・助成金など)は、15,886,942円で全体の2.067%でした。
- 売上原価、販売費及び一般管理費合計は712,744,142円で、昨年747,916,799円に比べて35,172,657円減。(95.29%)  
□人件費合計は599,483,251円で昨年574,553,509円に比べて24,929,742円増(104.33%)。総支出の84.11%でした。
- 退職金として14,527,103円を積み立てました。
- 税引き前当期純利益金額は47,935,823円。  
法人税、住民税及び事業税は14,434,700円。当期純利益は33,501,123円です。